［一　随筆2］　枕草子　二―中納言参り給ひて①

◇次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

中納言参り給ひて、御扇奉らせ給ふに、「隆家こそ、いみじき骨は得て侍れ。それを張らせて参らせむ」とするに、おぼろけの紙はえ張るまじければ、求め侍るなり。」と申し給ふ。「いかやうにかある。」と問ひ聞こえさせ給へば、「すべていみじう侍り。『さらにまだ見ぬ骨のさまなり。』となむ人々申す。まことにかばかりのは見えざりつ。」と言高くのたまへば、「さては、扇のにはあらで、海月のななり。」と聞こゆれば、「これ隆家が言にしてむ。」とて、笑ひ給ふ。

かやうのことこそは、かたはらいたきことのうちに入れつべけれど、「一つな落としそ。」と言へば、いかがはせむ。

問1　傍線部①・④・⑤・⑧・⑬はそれぞれだれからだれへの動作か。次から選び、記号で答えよ（同じ記号を何度使ってもよい）。

ア　中納言（隆家）　イ　中宮　ウ　作者　エ　周囲の女房たち　オ　中納言の周囲の人々

問2　傍線部②・③を口語訳せよ。

問3　傍線部⑥のような言い方をした理由を次から選び、記号で答えよ。

ア　扇の骨のすばらしさをその場の全員に伝えたかったから。
イ　周囲に大勢の女性がいて、緊張のため声が上ずったから。
ウ　自分の持っている骨のすばらしさを得意に思っているから。
エ　骨に合った紙を探していることを広く宣伝したかったから。

問4　傍線部⑦のように言ったのは、隆家の言葉のどの部分に対応したものか。本文中から抜き出して答えよ。

問5　傍線部⑨のように言った理由を説明せよ。

問6　傍線部⑩のように評価するのはなぜか。次から選び、記号で答えよ。

ア　内容が内輪の些細（ささい）な話だから。　イ　駄洒落（だじゃれ）を主とする低俗な話だから。　ウ　人から中傷されるのが怖いから。
エ　自慢話になるような内容だから。

問7　傍線部⑪を文法的に説明せよ。

問8　傍線部⑫から分かる『枕草子（まくらのそうし）』の執筆理由の一つを説明せよ。

問9　この話から想像される中納言隆家の人物像について簡潔に説明せよ。

枕草子　二―中納言参り給ひて①

年	組	番	氏名	評点

問1	①	から　へ
	④	から　へ
	⑤	から　へ
	⑧	から　へ
	⑬	から　へ
問2	②	
	③	
問3		
問4		
問5		
問6		
問7		
問8		
問9		

［一　随筆2］　枕草子　二―中納言参り給ひて②

◇次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

中納言参り給ひて、御扇奉らせ給ふに、「隆家こそ、いみじき骨は得て侍れ。それを張らせて参らせむとするに、おぼろけの紙はえ張るまじければ、求め侍るなり。」と申し給ふ。「いかやうにかある。」と問ひ聞こえさせ給へば、「すべていみじう侍り。『さらにまだ見ぬ骨のさまなり。』となむ人々申す。まことにかばかりのは見えざりつ。」と言高くのたまへば、「さては、扇のにはあらで、海月のななり。」と聞こゆれば、「これ隆家が言にしてむ。」とて、笑ひ給ふ。

かやうのことこそは、かたはらいたきことのうちに入れつべけれど、「一つな落としそ。」と言へば、いかがはせむ。

問1　傍線部①の本文中での読みを現代仮名遣い（平仮名）で記せ。

問2　傍線部②・③・⑩の本文中での意味を答えよ。

問3　傍線部a「て」の文法的説明として正しいものを次から選び、記号で答えよ。

ア　強意の助動詞　イ　断定の助動詞　ウ　格助詞　エ　接続助詞

問4　傍線部④・⑥・⑦・⑪を口語訳せよ。

問5　傍線部⑤について、何を「求め侍る」のか、正しいものを次から選び、記号で答えよ。

ア　宮中に合う高貴な扇とそれを使うべき場所
イ　宮中に合う高貴な扇と扇を持つべき人物
ウ　すばらしい地紙に合う扇の骨
エ　すばらしい扇の骨に似合わないような地紙
オ　すばらしい扇の骨にふさわしい地紙

問6　傍線部⑧を文法的に説明せよ。

問7　傍線部⑨で用いられている音便について説明せよ。

問8　清少納言の機知に富んだ言葉を、本文中から二十字以内（句読点を含む）で抜き出して答えよ。

枕草子　二―中納言参り給ひて②

年　組　番

氏名

評点

問1

問2　②　③　⑩

問3

問4　④　⑥　⑦　⑪

問5

問6

問7

問8

■枕草子（中納言参りたまひて）■

【　】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（配点　50点）

中納言参りたまひて、①御扇奉らせたまふに、「隆家こそいみじき骨は得てはべれ。それを張らせて参らせむとするに、②おぼろけの紙はえ張るまじければ、③求めはべるなり。」と申したまふ。「いかやうにかある。」と問ひAきこえ　Bさせたまへば、「すべていみじうはべり。『さらにまだ見ぬ骨のさまなり。』となむ人々申す。まことにかばかりのは見えざりつ。」と、④言高くのたまへば、「さては、扇のにはあらで、⑤海月のななり。」とC聞こゆれば、「これ隆家が言にしてむ。」とて、笑ひたまふ。かやうのことこそは、⑥かたはらいたきことのうちに入れつべけれど、「⑦一つな落としそ。」と言へば、いかがはせむ。

問一　二重傍線部「え」は、どの語と呼応しているか、本文中から抜き出せ。

問二　傍線部①「御扇奉らせたまふに」を、だれがだれにどうするのかを明らかにして現代語訳せよ。

問三　傍線部②「おぼろけの」、⑥「かたはらいたきこと」の本文における意味を、それぞれ答えよ。

問四　傍線部③「求めはべるなり」とあるが、何を求めるのか、答えよ。

問五　傍線部④「言高くのたまへば」とあるが、どうして「言高く」なったのか、二十字以内（句読点を含む）で説明せよ。

問六　傍線部⑤「海月のななり」について、次の(1)・(2)の問いに答えよ。

(1)　これは前のどの部分を受けて言ったのか、本文中から二か所抜き出し、それぞれその初めと終わりの三字（句読点は不要）で答えよ。

(2)　「ななり」について文法的に説明した次の文の空欄〔　A　〕～〔　C　〕に当てはまる語句を、それぞれひらがなで答えよ。

「ななり」は、断定の助動詞「なり」の連体形に、伝聞・推定の助動詞「なり」の終止形が付いた〔　A　〕の撥音便（はつおんびん）〔　B　〕の撥音〔　C　〕を表記しない形である。

問七　傍線部⑦「一つな落としそ」の解釈として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア　一つは残しておいてくれ
イ　一つも書いてはいけないよ
ウ　一つも書き落としてくれるな
エ　一つだけ書き残してしまったよ
オ　一つなら載せ忘れてもかまわない

問八　波線部A「きこえ」、B「させたまへ」、C「聞こゆれ」の敬語について、敬意の対象を次のア～エのうちからそれぞれ一つずつ選べ。

ア　中納言隆家
イ　中宮定子
ウ　作者
エ　人々

問九　本文から読み取れる中納言隆家の人物像として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア　自分本位で、他人を軽視する人物
イ　豪放な性格で、何をも恐れぬ人物
ウ　繊細で、細部にも気遣いする人物
エ　明るく無邪気で、屈託のない人物
オ　野心家で、出世栄達が第一の人物

問十　本文の主題として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選べ。

ア　清少納言の遠慮
イ　中宮定子の思いやり
ウ　清少納言の後悔
エ　中宮定子のユーモア
オ　清少納言の機知

学年	組	番号	氏名	得点
				/50

随筆（一）　枕草子　中納言参り給ひて

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

中納言a参り給ひて、御扇たてまつらせ給ふに、「隆家こそいみじき骨は得てb侍れ。それを張らせて参らせむとするに、Aおぼろけの紙はえ張るまじければ、もとめ侍るなり。」と申しc給ふ。「いかやうにかある。」と問ひ聞こえさせ給へば、「すべていみじう侍り。『Bさらにまだ見ぬ骨のさまなり。』となむ人々申す。まことにかばかりのは見えざりつ。」と言高くの給へば、「さては、扇のにはあらで、海月のd骨なり。」と聞こゆれば、「Cこれ隆家が言にしてむ。」とて笑ひ給ふ。

かやうのことこそは、Dかたはらいたきことのうちに入れつべけれど、「一つな落としそ。」と言へば、Eいかがはせむ。

問一　二重傍線部a～dの敬語の種類と敬意の対象を、それぞれ次から選べ。〈完答2点×4〉

敬語の種類　**ア**　尊敬　**イ**　謙譲　**ウ**　丁寧

敬意の対象　**ア**　作者　**イ**　隆家　**ウ**　中宮定子　**エ**　女房たち

問二　波線部1と用法の同じものを、次から選べ。〈3点〉

ア　絶えて桜のなかりせば　**イ**　ものも絶えず得させたり　**ウ**　果つる暁まで門たたく音もせず

エ　殿は何にかならせたまひたる。　**オ**　声高にものも言はせず

問三　波線部2・3を、それぞれ文法的に説明せよ。〈3点×2〉

問四　傍線部Aについて、次の問いに答えよ。

(1)　「おぼろけの紙」の意味を答えよ。〈3点〉

(2)　そのように言うのはなぜか。簡潔に説明せよ。〈7点〉

問五　傍線部B・Eを、それぞれ現代語訳せよ。〈4点×2〉

問六　傍線部Cと言ったのはなぜか。二十字以内で簡潔に答えよ。〈7点〉

問七　傍線部Dについて、次の問いに答えよ。

(1)　意味を答えよ。〈3点〉

(2)　このように言ったのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次から選べ。〈5点〉

ア　自分の発言のことを、得意げに書くことに抵抗があるから。

イ　自分の発言に対する相手の返答が見当違いだったから。

ウ　合いの手が、中途半端で自信がなくて恥ずかしいから。

エ　合いの手に対して、予想以上の反響に驚いたから。

オ　自分の発言は、単なる冗談で格調の高い話でもないから。

問一	問二	問三	問四 (1)	問四 (2)	問五	問六	問七 (1)	問七 (2)
a		2			B			
b								
c								
d		3			E			

10

20

問1　①ア・イ　④イ・ア　⑤オ・ア　⑧ウ・ア　⑬エ・ウ　（各2―10点）
問2　②すばらしい（扇の）骨を手に入れております。　③それに（紙を）張らせて献上しよう　（各4―8点）
問3　ウ　（3点）
問4　さらにまだ見ぬ骨のさまなり。　（5点）
問5　作者の当意即妙の機知を賞賛した。　（5点）
問6　エ　（3点）
問7　強意の助動詞「つ」の終止形＋当然の助動詞「べし」の已然形　（4点）
問8　定子の後宮であったことを一つ残らず書き留めること。　（6点）
問9　ユーモアを解する明るく気さくな人物　（6点）

問1　おうぎ　（1点）
問2　②すばらしい　③並一通りの　⑩苦々しい　（各2―6点）
問3　ア　（3点）
問4　④張ることはできそうもないので　⑥どのようなものですか。　⑦まったくまだ見たこともない骨の様子だ。　⑪一つも書きもらさないでくれ。　（各5―20点）
問5　オ　（3点）
問6　打消の接続助詞　（4点）
問7　断定の助動詞「なり」の連体形「なる」の撥音便「なん」の「ん」が無表記になったもの　（5点）
問8　さては、扇のにはあらで、海月のなり。（十九字）　（8点）

問一　まじけれ　（2点）
問二　中納言が中宮に御扇を差し上げなさるときに　（5点）
問三　②　普通の　⑥　苦々しいこと　（各3点×2＝6点）
問四　よい紙　（3点）
問五　扇の骨のすばらしさに自信があったから。（19字）　（5点）
問六　(1)　さらに～まなり／まこと～ざりつ　（各3点×2＝6点）
　　(2)　A　なるなり　B　なんなり　C　ん　（各2点×3＝6点）
問七　ウ　（3点）
問八　A　ア　B　イ　C　ア　（各2点×3＝6点）
問九　エ　（4点）
問十　オ　（4点）

問一　a　イ・ウ　b　ウ・ウ　c　ア・イ　d　イ・イ　（完答2点×4）
問二　オ　（3点）
問三　2　断定の助動詞「なり」の連体形撥音便化の「ん」無表記
問四　3　強意の助動詞「つ」の終止形　（3点×2）
　　(1)　ありさたりの紙　（3点）
　　(2)　大変すばらしい扇の骨なので、それにふさわしい紙を張らないと調和しないから。　（7点）
問五　B　以前には決して見たことのない骨の様子です。
　　E　どうしようか（どうしようもない）。　（4点×2）
問六　作者の当意即妙の合いの手に感心したから。（二十字）　（7点）
問七　(1)　聞き苦しいこと　（3点）
　　(2)　ア　（5点）